



2 病棟



病棟の特徴

平成 22 年 9 月に佐賀県唯一の総合周産期母子医療センターの指定を受けました。平成 29 年からドクターヘリ搬送の受入れを開始しています。産婦人科では、県内外からハイリスクな妊産褥婦を受入れ、先駆的医療・看護を提供しています。令和 4 年 7 月に病棟内に手術室を新設しました。緊急の帝王切開にいつでも対応できるように備えています。地域のクリニックや病院からの母体搬送は年間約 160 件、分娩件数は年間約 600 件です。分娩件数の半数は帝王切開となっています。多胎（双子以上）の妊婦は年間 50 人くらいの入院があります。ハイリスク分娩のみでなく、普通分娩も対応しております。さらに、無痛分娩も実施しており、産後の方からは大変好評を得ています。

病棟スタッフが外来で勤務しているため、ハイリスク妊婦に対しては妊娠期の受診時から分娩後まで受け持ちを継続します。医療ソーシャルワーカー（MSW）、心理療法士と共に分娩後の退院を見据えた介入を行い、切れ目のない支援を実施しています。継続支援が必要な方へは「つなぐ」というシステムを活用して市町と連携を取っています。また、赤ちゃんが NICU へ入院するケースも多いですが、ご家族が安心して過ごせるよう NICU のスタッフや心理療法士と連携し、不安の軽減と身体のケアに力を入れています。

専門性の高いスタッフの育成を目指し、『アドバンス助産師』の資格習得も支援しています。中には、緊急帝王切開術に対応できるスタッフもいます。さらに、院内のみでなく、地域においても活躍しています。思春期出前講座に出向き、命の大切さについて講演をしています。

小児科では医療的介入を必要としている小児の在宅支援システム（レスパイト）入院を受け入れています。NICU や GCU を退院された方が、地域で安心して生活できるように継続的に支援を行っています。

県内の看護学生・助産師学生を年間約 190 名受け入れており、後輩育成にも力をいれています。



LDR (Labor : 陣痛 Delivery : 分娩 and Recovery : 回復 room)

こちらのお部屋は産前～出産～産後まで継続して過ごすことができます

